

## 仮訳

ケルビン・キベット（ケニア）

フランカ・ブリュッゲン（ドイツ）

核戦争防止国際医師会議（IPPNW）医学生代表

### ケルビン・キベット

全員でないとしても、みなさんの大多数はすでに、世界が今、経験したことの無い新型コロナウイルス感染症、COVID-19 のパンデミックに直面しており、多くの所で医療体制がひっ迫し続けていることをご存じでしょう。たくさんの情報が出回っていますが、社会経済的側面や将来に向けて学ぶべき教訓について掘り下げる前に、基礎的なことをきちんととらえることが大切です。

COVID-19 は、新しく発見されたコロナウイルスによって引き起こされる呼吸器疾患です。COVID-19 ウイルスは主に、感染した人が咳やくしゃみをしたときに出る唾液や鼻からの飛沫によって広がります。ですから、咳をするときは曲げた肘で口元をおさえるなど、咳エチケットを実践することは大切です。ウイルスは汚染されたものの表面を触った手で顔に触れることでも感染します。

感染者の 80% に、のどの痛み、乾いた咳、くしゃみなど軽度の呼吸器症状があらわれ、ほかに筋肉の痛み、倦怠感や発熱などの症状もみられます。残りのうち 10~15% が、急性の息切れなど重症の症状に見舞われて入院が必要となり、5% は集中治療が必要となる可能性があります。パンデミックの速さと、家族間の濃厚接触を通じた拡大により、人々は大規模な精神保健上の困難を経験することになります。

今のところ、ワクチンも特定の治療法もないので、社会的距離を置くこと（ソーシャル・ディスタンス）や手指の消毒、顔を触らないなどの予防が必要です。パンデミックに引き続き対処するなかで、この青年集会に集っている私たちのような公的医療の活動家は、さまざまな国でのこの危機への対応から教訓をくみ取り、将来と現在の危機に生かす必要があります。

### フランカ・ブリュッゲン

導入をありがとう、ケルビン。あなたの発言で、私たちはみな、新型コロナウイルスの医学的側面に関して、同じレベルに立つことができました。私は続けてパンデミックの政治的影響や、医療実践と政治実践の類似点についての私たちの考えを、みなさんと共有したいと思います。

まず、世界中で各国政府の介入が、その範囲と私たち個人の生活に及ぼす影響という点で異例のものであるということは否定できません。個人の自由への大きな制約を

伴ってとられているすべての措置が、市民に支持されている理由は、彼ら、私たちが、必要だと理解していることにほかなりません。感染者増加の速度を緩やかにする、いわゆる「曲線の傾斜の平坦化」の原則と、それを実現する最善の方法は何かということが、あらゆるメディアで大きく取り上げられ、多くの人々に意識されるようになりました。それは、私たちが日々患者と接するときと全く同じです。つまり、投薬治療をきちんと守ってもらうには教育がカギだということです。人々はなぜ医者がこの薬を飲んでほしいのか、あるいはなぜ禁煙をすすめるのかなど、理由を理解しなければならないのです。

2つめに、私たちは、大半の国の政府が自国で実際に災害（重大事態？）が起きる前に行動するのを目にしました。イタリアでは大変悲惨な状況になりましたが、そこで起こったことは私たちが日常生活をそのまま続けばどうなるかを目の当たりにしたわけです。一方、多くの他の国々の政府は、事が起こる前に適切な手立てをとることによって、危機的状況を防ぐことができました。ここでも、医療実践の一つの大きな原則との類似を見ることができます。すなわち、治療できないものは予防せよ、です。私たちは、今ある集中治療室では、新型コロナウイルスの感染者の使用できる集中治療室の急激な増加のピークに対応するには全く足りないことに気づきました。賢明な解決策は、感染増加がピークに達する速度を緩める以外にないのです。

最後にこの時期、政治的決定に化学が及ぼす影響を強調したいと思います。ロックダウンや旅行制限など多くの決定は、科学的研究と過去のパンデミックや他国の経験に基づいています。ちょうど、科学的根拠に基づく医療こそより良い質の保健医療への大きな一歩になったのと同じです。このことは、私たちに科学的根拠に基づく政治は何を成し遂げられるのかを示しています。

個人的には、私は今の危機で私たちが経験していることを他の議論にも生かすことがとても重要だと考えます。これがどう有効に働くか、核軍縮を例に簡単に説明しましょう。

1945年、日本の2つの都市が攻撃され、日本の人々は初めて、核兵器がもたらす想像を絶する恐ろしい結果を経験しました。それ以後、私たちの世界は大きく変わり、国連が最初に出した宣言のひとつによって、国際社会は核兵器のない世界という目標に合意しました。核不拡散条約においても、核兵器国は全世界の核軍縮のために努力するという第6条に合意したのです。この目標に反して、核兵器の保有量は増え続け、80年代に最大となり、今日でも約1万4000発の核弾頭が存在しています。歴史において、技術的または人間の失敗が私たちを核戦争の1歩手前まで近づけたという例が複数あります。そしてそれが避けられたのは、幸運以外の何物でもありませんでした。さらに、核兵器によって苦しんでいるのは、広島と長崎の市民だけではありません。

世界中のウラン採掘場や、ウラン濃縮工場、核実験場は人々と環境に被害をもたらしています。

時とともに、核爆発による短期・長期の影響について私たちの知識は増え、先ほどお見せしたビデオでも見たように、今日では核攻撃が起こった場合、被災者を治療するのに十分な集中治療室を持つ国は世界にひとつもないことを証明する根拠がたくさんあります。

この数ヶ月間、私たちは人々がコロナウイルスで死なないように、できることすべてをしてきました。同時に、私たちは、75年前の核爆発の脅威の大きさを実感しています。

人々はこう言うかもしれません。「これはただの怖いシナリオにすぎない、核戦争は絶対に起こらない。」しかし、どうしてそう断言できるのでしょうか。2000発の核弾頭が即時警戒態勢に置かれ、すべての核兵器国が地域紛争や国際紛争に関わっており、中距離核戦力（INF）全廃条約などの軍縮条約がそれに代わるものがないまま破棄されているというのに。さらに、新型コロナウイルスの世界的感染爆発は、あり得ないことが起こること、そして私たちがあり得ないことが起こるのを許してしまった結果、私たちが背負うことになる重荷の途方もない大きさを示したのです。この数週間に私たちが見てきたように、政治家も社会も先見の明を持って行動し、必要性を理解すれば変化を受け入れる意思があります。ですから、彼らに、完全な核軍縮に有利な科学的根拠を示し、なぜ私たちには核兵器を今禁止する以外に選択の余地はないのかを説明しましょう！